

# サマリヤ会だより

札幌市南区藤野4条3丁目8番18号

社会福祉法人 青十字サマリヤ会

理事長 齊藤和夫

TEL 011-591-1921 FAX 011-591-8414

2011年10月発行

## 「迷い出た小さき者のために」

青十字サマリヤ会理事長

齊藤 和夫

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

新約聖書 マタイによる福音書 18章 10～14節

先月、アディクションの研修会に参加して、国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦医師の講演を聴きました。松本先生が直接10代の子どもたちへの自傷行為アンケートをして10代の10%はリストカット等で自傷したことがあるということが分かりました。以前学校でのアンケートの結果では0.4%程度でしか答えなかったようです。

なぜ、子どもたちは正直に松本先生のアンケートに答えたのでしょうか。

さらに、薬物乱用の危険因子と経路として、子どもに受けた被虐待歴、両親の不和、親のアルコール・薬物乱用、就学前の多動・粗暴傾向、学校でのいじめ被害、学校生活での達成感不足、薬物乱用する友人、うつ・不安・自傷行為が挙げられていました。

薬物乱用防止ポスターの「絶対だめ！」で理解でき、そうだ薬物は使用してはいけないと思う99%の若者ではない、生きづらさを抱えている1%の若者へ届くメッセージが必要であると言うことでした。

また、自傷する若者の特徴として自尊心が低いこと、摂食障害の傾向が認められ、大人は信用できないと考えている若者が多いことも挙げられていて「自分の身体を傷つけるだけで、人を傷つけるわけじゃない。クソリを使いたい人は勝手に使えばいいと思う」等々が若者の思いの中にあるそうです。

自傷には「鎮痛作用」があり、心の痛み、からだの痛み、脳内麻薬分泌、無感覚・麻痺と悪循環のスパイラルに入っていきます。皮膚を切る瞬間に、つらい出来事の記憶も、つらい感情に襲われたことも、自分の生活や人生から切り離される。「からだの痛み」で「こころの痛み」にフタをする事になります。

このように、あなたは子どもたちの心の叫びの氷山の一角しか知らない。との講演でした。

まさに、サマリヤ館に入館する方々もアルコールに酔って自分の生活や人生から切り離れた生き方でした。その閉ざされたこころの痛みのフタを少しずつ外すための心の作業が毎日のミーティングでなされていきます。

私がサマリヤ館で働いてきて、少しずつ見えてきた現実です。このようなアディクションの現状に目を向けないでいる自分は「迷い出た一匹を捜しに行かない」と同様に思うのです。迷い出た一匹を捜しに行くことが、社会福祉活動の原点でもあるのでしょうか。

私が若い頃から尊敬する人に止揚学園の福井達雨さんがいます。今でも障がいをもつ子ども一人一人を大切に想い焦点をあて、その子の心の状態を理解し支援している姿を知るとき、「迷い出た小さき者のために」

という人格を尊重する言葉が沁みてきます。

今回、青十字サマリヤ会の理事長を 21 年間続けていただいた故熊谷豊次医師も永きにわたり医療の現場で病気の方や障がいを負う方々、さらにご家族を尊重し、全身全霊を持って支えている姿を病院や自宅でお会いするときにも観られました。

残念ながら、理事長を退任されることにはなりましたが、今までのご功績を心より感謝致します。これからの青十字サマリヤ会の歩みも故熊谷豊次前理事長の姿勢を忘れずに進んで行きたいと思っています。

新しく理事長に就任し、館長（施設長）と理事長の兼任という重責ではありますが、役員、評議員、スタッフ及び皆様の力添えにより、一人でも多くの依存症者が回復されますようお願いしながら任務を果たして行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

近況報告としては、今月中に青十字サマリヤ館の暖房設備も全面的に新しくなり、新築工事は資金不足のため出来ませんでしたが、早ければ、来年には皆様から寄せられた寄附金によって外壁等の耐震リフォーム工事が出来る事を願っています。

最後に、社会福祉法人青十字サマリヤ会が「迷い出た小さい者のために」あることを覚えつつ働くことができますように、今後ともご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 「三年目です。」

### サマリヤ・カンパニー生活支援員

### 葛森 祐二

青十字サマリヤ館に勤務させていただいて3年目になります。

アルコール無しの人生をまともに生きるのが初めてで、しかも自分と同じ病気の方の社会復帰に向けての施設職員。瞬間に過ぎた1年目、少しの余裕と油断の2年目、そして3年目の今年は先輩スタッフの退職に伴う自意識過剰による責任負担増、勝手に「飲まないスリッパ&ソーパー」を繰り返しているような気がします。

アルコールは精神病院の保護室で止まりました。退院後もAAのミーティングに通うことで止まっています。少しではありますが社会に復帰して自立の道に向かっているつもりですが、根本的な自分の問題は変わっていないな～？と調子が良い時は苦笑い、悪い時は苦虫をかみつぶしたような顔をしているようです。

自分だけ良ければ周りは関係なし、自分の都合だけで生きてきた人生。言葉は丁寧、物腰は柔らかく、一見行儀の良い人には見えますが、実は狂気の生き方をしてきた自分。そんな生き方の結果多くの信用を失い、行き着いたのは精神病院の保護室でした。

いまだかつてない体の苦しみ（離脱症状）、本当に苦しかった、狂しかったのですが、実はその後の精神的（心）な苦しみ（痛み）が本当に酷かった。最近、その当時の自分を知っている医療関係者の方と話をすることがあったのですが、「本当に辛そうでしたね」と言われました（保護室に居る時ではなく一般病棟に移ってからの事です）その時の心境は社会死・後悔の念・絶望等々・・・何度も何度もミーティングで話しているのですが、いまだに適切な表現が見当たらない程の苦しく辛い心境でした。生き直す勇気が出てこない・・・、けれども全てを諦める勇気も度胸もない中途半端な自分でした。

今も少しでも気を緩めると同じ結果になると思っています。でも、その時の痛みや苦しみだけでは止め続けられないのも分かっています。やはりミーティングで「いつもどんなふうで、その何が起こって、今がどうであるか」を常に仲間の前で正直になることが大切と思っています。

AAのバースデーで頂く色紙に良く「仲間・仲間と共に」という言葉があります。飲まない生き方をもらったAA・仲間、そして生活のベースとなる（社福）青十字サマリヤ会で飲まないで生きるに必要な、自分の側にある「難問」「奇問」「珍問」にあきらめず・めげず・逃げないで、取り組んでいきたいと思っています。

感謝です、ありがとうございます。

# 「僕はアル中」

サマリヤ・カンパニー生活支援員

## 米田 憲司

31 才の時、叔母に連れられ精神病院に入った。前年に足が内出血で真っ黒になり、筋肉が夜中に攣るようになったので、元看護師だった叔母に相談したところ、すすきのにある内科を紹介され、そこに行った。

先生は血液検査の結果を見て「あなたの問題は全てお酒から来ていると思うよ。とりあえずしばらく止めてみよう」と言った。

金が無くなると叔母に電話を掛けていたので、歯を食い縛るような断酒が2~3週間続いた。

再度検査の結果が出たとき先生は「すばらしいあの叔母さんの甥っ子さんならやると思っていましたよ。」と褒めてくれました。

そして一人暮らしの部屋に帰り祝杯を挙げた。体中の血管にアルコールが流れて行く感覚を感じた。「俺はこの為に生きているんだ!!」と叫んだ。

それから精神病院の保護室に連れて行かれるまで、酒は手放せなかった。

食品会社のある課の夜勤のリーダーだったが、上司に呼ばれた。「お前仕事でも飲んでるのか?」

僕は「逃げも隠れもしません。飲んでます。いかなる処分も受けます。」と酔いながら答えた。

「明日から日勤で俺と一緒にやるぞ」と上司は言った。

部屋で僕は「俺のせりふかっこいい」と思いながらまた飲んだ。

日勤に行くともういい仕事に思えた。昼飯を会社の隣の食堂で摂った。秋刀魚定食を頼むと思わずビールが飲みたくなった。また飲んだ。

たまたまいた事務員に報告され、帰された。

「なぜ、仲間を売る!!」また飲んだ。「辞表を持って来い」と電話が鳴る。

「今、書いて持って行く!!」震える手を押さえるため、また飲んだ。

気が付くと翌朝になっていた。

ウイスキーを飲んでしていると電話がなった。叔母からだった。

泥酔していたので途中が思い出せない。後で分かったが、それが保護室の中で、先生に「アルコール依存症」と言われた。

退院するときその先生に「あんた若いから、1~2 年棒に振って自助グループに通いなさい。」と言われた。

あれから10年が過ぎようとしている。

今、サマリヤ館の職員としてここに居る。信じられない。まだここに来て5ヶ月だが、驚きの毎日が待っていた。

僕はただのアル中だ。しかし多くの人々に助けられここにいることを何時までも忘れずにいたい。

# 「飲まないで生きる喜び」

## クー

サマリヤ館に来た時は歩くのがやっとだった。すぐに悪性症候群になり札幌の病院に入院、辛い入院だった。リハビリをしてやっと歩けるようになった。

北見にいた時は仕事が終わったら飲むことしか考えられなかった。酒を飲んでいたころは食べないで飲んでいった。頭に栄養が行かず、最後は200メートル先のコンビニまで行くのがやっとだった。自助会にも飲みながら通ったけど駄目だった。結果、癲癇で倒れて精神病院。

そこでサマリヤ館に入所を勧められた。最初はたいして期待してなかったし、施設の評判は「人間扱いされない」とか「ひどい所だ」という噂を聞いていた。

入館した最初の頃は先輩入館者さんに付いていくのがやっとだった。靴を履くのにも時間が掛かったし、知らない街で夜のAAミーティング会場を覚えるのが大変だった。今はサマリヤ館にきてもう少して1年になろうとしている。サマリヤ館に来ての生活で「食・歩くこと」の大切さを感じる。最近お世話になっている病院の先生に大分回復したね、と言われた。

今少してはあるが「飲まないで生きる喜び」を感じる。退館後も「食・歩く」「ミーティング」を大切に過ごしていきたいと思う。

感謝します、ありがとうございます。

# 入館までの道筋

サマリヤ・カンパニー生活支援員

## 土谷 俊男

それぞれの道筋は違っていても・・・サマリヤ館プログラム第2章のくだりが大好きで、時々ミーテングのテーマとして出さしてもらっている。自分の入館の道筋は平成11年の10月最後の精神病院(本人はそう思っている)に北のはずれの町から札幌の病院にやってきた。

飲んではいけない、職場の上司からはもう最後ですと言われていたが、妻への不満ややりきれなさ、家族があるのに何か孤独である淋しい・・・との思いが強かった。何とか飲酒欲求をパチンコに置き換えて過ごしていた。仕事が終わってまっすぐパチンコ屋へ、帰るのは家族が寝た後、おもむろに夕食を食べる生活が続いた。そんな思いで過ごしているので、巧妙で不可解で強力なものは、すぐに体の中に入ってくる。あんなに可愛い、大切な息子だと思っていただけなんです。私には酒に勝ものはなかったんです。家族も、仕事もそれ以上のものでした。飲めば淋しさ、悲しさが忘れられる。最後は自分の力ではどうにもならなくなる。

危険な男から周りに誰もいなくなり、遠方から姉が呼ばれ、酔っ払いに2日間付き合おう精神病院に連れて行こうか、作戦を練ったようです。夜行列車で酒を飲みながら、連れて行こうと言う事になったようです。入院中は家族を恨み続けていました。当時の担当医は「札幌の人になりなさい」と言ってくれました。入院中に家族と住んでいた住宅を整理したり本当につらかったです。

来たくないサマリヤに来たのは平成12年5月でした。通称地獄坂は桜の花が散っていました。当時サマリヤで待っていたのは、大崎館長夫妻その家族、3匹のわんこ1匹は大好きなジョシー、スタッフは海坊主の兄弟みたいな2人、やせた男の子のようなワーカーでした。午前3ミーテング午後は作業夜はAAの生活でした。真夏の畑を耕すのは大変で、又堆肥を運ぶのは臭いし初めての経験でした。あれから11年酒なしで勤めた最後の勤め先で送別会をしてもらい、記念品をいただきました。酒なしの人生いいですね、支えてくれた周りの多くの人達に感

謝です。

# なんか笑える日々 \ (^o^) /

ふじの共同作業所生活支援員

## 佐藤 香愛

それは夏くらいから始まったように思う。いや、前からそうだったのだがエスカレートしたのかもしれない。

・・・私の「バカ笑い \ (o) /」

他人(99%は岡田純氏)の言葉の間違いは最高のおかず。

館長と世話人のやりとりも非常に面白い。

山岸さんの鋭いツッコミもツボに入る。

車とパソコンに瞳キラリンする蔦森さんにも

ボソッと厳しいお言葉を放つ米田さんにも

台所の4人の方々にも、なんか笑っちゃう。(実際面白いのです！)

ウケるわ、マジでウケるわ！とパチパチ手を叩きながら。

そしてそれに飽き足らず・・・

それまでは気に障ったり腹が立つような出来事にも

・・・あれっ。あれあれっ！　なんだか笑っているじゃないの。

時には、「思い出し笑い(。)」にまでなったりもする。

しゃあないわ。しゃあないね。

受け入れるというか、許しちゃうというか。笑ってしまう。

その点から言うと、ふじの作業所は私の笑いの宝庫になる。

発想豊かで、何が出てくるかわからないののだが、何となく予想がつく所がいい。

怒ってるんだけど半分諦めていて、でもやっぱり怒っている所もいい。

人間くさい・・・というかそういう所がいい。

怒ってみたり泣いてみたり急いだり立ち止まったりしながら2年半が過ぎた。

悩みながら、葛藤しながら飲まないで生きている人たち

を、この目で見た。

この事実をたくさんの人に伝えたい。

それが自分の使命で、そのためにここに来させてもらったのかなぁ・・と感じている。

「こっつて幸せ。」って今思う自分。

辛い時の自分を思い出すと、なんだかまた笑えてしまう。

最後に

スタッフ、作業所メンバー、入館者の方々・・・ここで出会えた多くの人に感謝しています。

いつもいつもありがとうございます。

## サマリヤ館に来て？

ふじの共同作業所生活支援員

### 岡田 純

昔、昔、藤野の奥に土地を買った事を思い出しました。その土地は、いまは無い。何故ないかと言うと、分かりきった事だと思うけど、酒と博打のために、一ヶ月、二ヶ月で売ってしまった。今サマリヤ館に来て昔を振り返って見て、なつかしくも思うし、凄まじく命を懸けた生き様をしてきたなと思い、よく死ななかつたと思う。

少し振り返って見ると、高校1年の時にはもう、朝から薬局で売っているハイミナールという薬を飲んでワリッて、学校に通学してた。夜になるとススキノに友達と遊びに行き酒を飲んで喧嘩もたまにして警察に補導されたこともあった。先生からも良くやきが入った。体育館で1時間、正座させられ往復びんたを食らい、それで許された。まあ何とか3年で高校を卒業出来た。親が商売をやっていたので親父に商売をやれといわれ、初めは見習いからラーメン屋を始め、2、3ヶ月後から本格的に任される。景気が良い時で儲かった。売り上げをごまかして毎晩ススキノに行く。飲み方が段々ひどくなっていく。いろんな商売をして、最終にはパルコの裏小路で喫茶店をやる。此の頃、親友から酒の事、博打のこと、とくに競馬のやり方など指摘される。が、俺はいつも「なんでお前らに言われなきゃ

ならないんだ」と言い返してた。自分の稼いだ金でやっているのに言われるすじあいはないと言ってた。だけど此の頃から店の売り上げをごまかしていたのが兄貴とお袋にばれていた。サラ金にも手をだして、酒を飲んで、競馬で勝てばいつでも返せるからとおもいつつ、勝てばススキノでスナックを借り切る。負けたらサラ金から借りて飲んで博打をやる。借りたらもうこっちのものだ。と、段々とひどくなる。此の頃はススキノで朝まで飲んで真っ直ぐ店に出勤することがしばしば。

喫茶店での昼過ぎ、気分が悪くなりトイレに駆け込んで吐く。血反吐がすごく、しばらく座り込む。たまたま母親が来て見つかる。驚いて病院に連れて行かれ入院になる。1回目の内科の入院が始まる。5年間入退院をする。正直なところ何回、入退院を繰り返したか本当は分からない。今度は精神病院の始まりだ。5年間5回の入退院をする。初めの4回は同じ精神病院、そしてとうとう今まで入院していた病院の院長から、「あなたはうちの病院に来ても直らないからアルコールの専門病院を紹介しますから」といわれ、紹介された病院に入院した。最後の5回目の精神病院で、内科、精神病院合せて10年間。そしてその最後の病院で施設とAAに出会う。

自分の人生は生まれた時から、サマリヤ館に出会うためだったのかな？

## 今日、このごろ思うこと

グループホーム世話人

### 齊藤 千恵子

サマリヤのミーティングで使う「回復のプログラム」というテキストを読むと、自分がアルコール依存者と認めるということの難しさと、認めることの大切さを読みとくことが出来る。私は最近、アルコール依存の人でなくても、このことばの意味することはなんと人間の心理を深く指摘するものかと感心している。

幸いにも、私の両親は元気で八十代を迎えているが、ここ5年位前から母は認知症が頭われてしまった。母と一緒にいて暮らしていくことを人生最後の使命のように思っている父のおかげで、どうにか二人で暮らしていることができていた。

認知症からくる母の妄想で、母は父につらくあたり、母にとっても父にとっても肉体的にも精神的にも辛い毎日をおくっていた。

父は会うたびにつらさに涙し、母からの攻めにより「死にたい」ともらすようになっていた。母は母で、裏切られたと思い、いたたまれぬ気持ちにさいなまれ、気持ちがおさまらない様子だった。しかし今まで誰の手も借りずにやってきた二人にとって、ヘルパーさんに入ってもらふことや、デイケアに行くことは、相容れないものがあり、子供たちが言う「別々に暮らしてはどうか」などの言葉に耳を貸そうとせず、まだやれる、まだがんばれると言い張った。今まで誰の手も借りずにやって来たということが二人にとってひとつのプライドとなり、支えにもなっていたようであるが、自分たちの弱さを認めていたら、なんと楽になるだろうと思っていた。

次の段階に進めたのは、父が病気になってからだった。

自分ではどうすることも出来なくなったときだった。この親の姿を通して、人の自我の強さと、また、本人が認め、納得するまで語りながらも見守っていくしかないことを覚えた。

若い頃は、人生がはてしなく長いような気がしていたが、わたしも 60 に手が届くようになり、人生の短さを感じている。又このことを通して、何を大事にし何を大切にしていくのか、それは、人生の終盤になって集大成として表れることなのだということがわかった。

というようなことを言っていると横で「年をとったら忘れて同じだ」といっている言葉に反発せず、「そーかもな」と力の抜ける私であった。

それでもやっぱり、冷静に自分の姿を見つめ、弱さを認めていける時間を大切にしていきたいと思う今日この頃である。

## 回復のプログラム

### 事務員 山岸 多美子

サマリヤ館で事務の仕事をしていただくようになって

てから、早9年半を数えた。

実に年月の流れるのが早い。まさに、光陰矢のごとである。

振り返ってみると、沢山の新しい出会いがあり、そして沢山の別れがあった。

私は事務員なので 直接サマリヤ館の回復のプログラムによるミーティングをしたことはないが、そのプログラムは「AAの12のステップ」を土台に作られていて、人として生きるときに必要な基本を押さえていて、実に良く出来ているなあと 幾度となく感心させられた。

私には到底出来そうもないが、そのプログラムと真正面から堂々と向き合っ、自分の内面を見つめ、かつそれを言葉に表して語る。という いわゆるミーティングを 朝、晩そして、日によっては昼も行っている入館者の方々には心底頭が下がる。

辛い作業だろうと思う。

かつてアルコールに問題を持っていて、今はプログラムによって回復して支援員として働いているスタッフは“必ず回復するんだ。プログラムを信じろよ。”と見守る。

そのようにして、一緒にスタッフもミーティングをする。

実は回復までに長い時間が必要だ。

ババッと効き目が現われるわけではないので、途中で投げ出したくなるのでは？と 部外者ながら余計な心配をする。

12のステップを、文字通り1ステップづつ、12ステップ登っていかなければならない。

効き目は遅いが、効きだしたらその効き目は 確実に人を変えてゆく。

それは、部外者の私の目にもくっきりとそう映るのだ。

変わり始めるとそれは本当に早い。うれしくて手を打って喜びたくなるが、そうはしない。これからが本当の成長のはじまりになるからだ。

そうやって、幾人もの入館者を迎え、そして退館者を見送った。

退館してから、ふじの作業所に通う人もいる。

それぞれ与えられた賜物を沢山持っている。

長いこと、ふじの作業所といえば“ルバーブ”といわれるほど 自前のルバーブ畑を持って、ルバーブジャムを先駆けて製造し販売した。もちろん今も作っている。

最近は、個々の賜物を生かして、木工工芸、ステンドグ

ラス制作にも精を出している。

得意な分野で実力を発揮できるせいか、作業所での活動が楽しらしく、又自分の作品が出来上がったときなどは、格別の喜びがあるらしい。

だからといって、もう回復したからとプログラムから離れることはしない。プログラムにのりつめたミーティングは一生涯欠かせないからである。

自分で“もう大丈夫”などと勝手に思っただけでミーティングをサボったりすると、とたんに思考回路が狂い始め、時には「少くらの酒なら大丈夫」などと考え始めたりする。

それくらい「回復する力」を持っているプログラムである。

一応私もクリスチャンの端くれなので、毎朝聖書のみことばを読み、黙想する時を持っている。

しかし、なかなか自分の本当の姿を、自分でありのまま見つめかち認めることが出来ない。

言い訳したり、人のせいにしてたりしてどうやって言い逃れしようかと 悪巧みばかりを思い巡らせている。

回復のプログラムでは最初に自分が無力であることを認めるのだが 私にとってはそれがどうにも難しいのである。

さも自分が何でも出来、何でも知っているかのように高ぶっている。

そんな自分にこそ回復のプログラムが必要だと思うこのごろである。

思いがけず、9年半も働かせていただいた。

それは サマリヤ館という“人の心の痛み”を知っている人たちが集っているところだからだと思う。

そして 支援員であるスタッフが回復のプログラムにのりつめて生きていて 無力であることを認め受け入れて、生かされることの喜びを私に見せてくれるからだと思う。

私は来春 4 月をもって(定年をとくに過ぎているので)退職することになっている。いろいろ配慮していただいて、段取りよく？若い！！後任も決まった。

退職後は 悠々自適？の年金暮らしが始まる。

正直、私自身は少し偏った無力になれない人格を持っている。(かつてあるスタッフから“自己中だ”といわれたことがある。ちなみに今も自己中である)しかし、無力であることの素晴らしさを、はたから十分見せていただいたので、ここで見聞きした回復のプログラムにのりつめて

ゆっくり自分を見つめてみたい。

回復のプログラムだから。

実は、サマリヤ館建替えのプロジェクトが始まったばかりである。

これから本当に苦しい経営が始まると思う。

そんな折、老齢になって身を引くことになったが サマリヤ館のこれからの歩みに、豊かな主の導きと、人知を遥かに超えた主の大いなる祝福を心から願い祈っている。

退職時には、ちょうど10年間勤務したことになるが、10年もの長い間、ひどい自己中だったにもかかわらず、入館者の方を初め、スタッフの方々が、いつくしみ見守ってくださったおかげで どうにか働き続けることが出来た。

長い間、自己中のままで回復しなかったけど、いろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。

#### 前理事長 熊谷豊次氏 訃報のお知らせ

前理事長 熊谷豊次氏が2011年10月16日(日)午前0時30分に召天されました。

熊谷豊次氏は1990年11月に理事長として就任し、2011年8月まで21年間の永きにわって、青十字サマリヤ会の発展向上に貢献されました。

哀悼の意を表し、お祈りいたします。



2011年9月17日 自宅にて奥様と共に撮影

(感謝状と回復者手作りの記念品)

## 献品・献金・青十字サマリア館の建て替え寄附金

ご支援ありがとうございます。(順不同・敬称略) 2010年10月～2011年10月

### 【団体】

藤野福音キリスト教会・東栄福音キリスト教会・砂川福音キリスト教会・帯広栄光キリスト教会・栄福音キリスト教会・厚別福音キリスト教会・日本キリスト教会札幌白石教会・日本キリスト教会札幌豊平教会・平岡福音キリスト教会・日本メノナイト帯広キリスト教会・日本キリスト教会札幌北一条教会・日本メノナイト足寄キリスト教会・カトリック真駒内教会・(株)中条・日本キリスト教団真駒内教会・長野病院・札幌羊ヶ丘教会・幌向小羊教会・高森キリスト教会・日本メノナイト上士幌キリスト教会・日本キリスト教会伊達教会・日本キリスト教会北見教会・日本キリスト教会札幌桑園教会・ウェスレアン・ホーリネス教団札幌新生教会・札幌ナザレン教会・倶知安福音キリスト教会・グレースコミュニティ・北見めぐみキリスト教会・屯田キリスト教会・日本キリスト教会苫小牧教会・日本メノナイト富良野のぞみキリスト教会・札幌平和の福音教会・本田記念病院・世の光キリスト教会・救世軍札幌小隊・道央佐藤病院・平岸いずみキリスト教会・日本キリスト教会小樽シオン教会・広尾キリスト教会・札幌南福音キリスト教会・北広島福音キリスト教会・もいわ中央保育園・主都福音キリスト教会・EMFサマーキャンプ準備委員会・植苗病院・大江病院・帯広保健所・石井病院・宗谷保健福祉事務所・北海道保健福祉部・藤野地区社会福祉協議会・三番通福音キリスト教会・市立三笠総合病院・北仁会旭山病院・啓生会病院・滝川保健所・苫小牧保健所・石金病院・富良野保健所・紋別保健所・友愛記念病院・五稜会病院・長万部町役場・高台病院・第一回北海道アディクションフォーラム実行委員会・北海道聖公会道東分区婦人の会・道央佐藤病院アルコールスタッフ・藤野福音キリスト教会シオン会・小樽保健所健康増進課・札幌市障害者小規模共同作業所連絡協議会・室蘭保健所・(株)アラゼン・聖マーガレット教会・虻田福音キリスト教会・上川保健福祉室・道立衛生学院 地域看護学科・道立精神保健福祉センター・札幌市保健福祉局・新札幌聖書教会・港南福音教会・江別バプテストキリスト教会・網走聖ペテロ教会・北見教会・日本聖公会札幌キリスト教会・函館聖ヨハネ教会・(株)クワイイト桜庭・札幌ライトハウスキリスト教会・真駒内教会・ミネルバ病院・中村記念病院 看護学校・大谷地病院・日本ナザレン教団札幌教会・デイケアクリニックほっとステーション・あおぞらクリニック・NTTどさんこギフト倶楽部

### 【個人】

田中義一・村田充子・齊藤和夫・千恵子・とおる・中川祐子・相馬のぞみ、ゆりか・鈴木保夫・石川眞由美・鹿野真澄・晴美・坂田誠・大崎久雄・尾藤美恵子・飯野正行、まゆみ・熊谷豊次・柴川正義、明子・谷口清子・大崎政弘、良子・貫洞賢治・匿名・磯山巖・新岡キエ・山本光・澤村篤子・齊藤・村田充子・林共栄子・堀田正和・木村貞昭・佐々木至、芙美子・菊地小夜子・竹市利子・佐藤末吉・齊藤翼、響子・小林基人・由貴子・細川亜希子・堀江俊文・黒田迪子・田辺等・石井美雪・橋本清孝・飯田勝彦、るつ子・今井裕介・根井悦子・益山桂太郎・石田勉・石川幹雄・山谷ゆかり・大沼百合・長谷川直実・シュテックレ・コニー・加藤久美子・斉藤順子・渡辺慶人・渋谷敬子・磯見智子・佐藤由紀子・佐藤隆・内海初子・和田晴美・松尾知子・太田充子・荻野秀二・成田元・藤田毅・佐々木希美枝・長野方紀・平賀俊尚・小林豊・相田一郎・中村和芳・阿部昇・太田耀子・福島亨・山家研司・廣田洋子・出合清・木村初子・松井博嗣・伊藤善也・藤田晃三・佐藤久美子・種田智恵子・藤本佳範・本間眞智子・大田人可・山賀慎一・小倉敬一・金川美千代・木幡千代子・安田ゆかり・相馬剛、孝子・三浦統・笹森秀雄・竹内徳男・田中章二・谷井広樹・川島邦子・世良洋、ベー、ワンジー、気境徹・藤村保文・藤本朱美・横内悟・原田武行・阿部芳克・植松誠・辻野・岡堀・横山多佳子・野村、宮下和之、陽子・枝川宏子・佐藤功、治子・本田典子・数又裕子・丹羽和彦、遥・越山涼子・矢崎弘志・ダルマン・ピーター・松井新世・對馬隆行・高橋博政・西川恵子・福島修子・萩原信義・角本修一、久美子・佐藤公一・角本貴子・大橋良子・有賀敏・谷口和弥・榊田理恵・望月和代・和田弓・旭山病院 吉原、ほっとステーション 高橋・石田典子・横山登志子・浜本亜矢子・川村敏明・三浦彌・河野行秀・柴田眞智子・広瀬敬次郎・有馬滋・手島則幸・旭山病院 一條悦子、和田沙代子・黒田克之・岩瀬洋子・李香男・千葉春枝・W・ランハンス・高野由幸・中村文裕・今井啓介・土田宏暢・齊藤哲治・菅原幸子・福地恵子・山口俊郎